

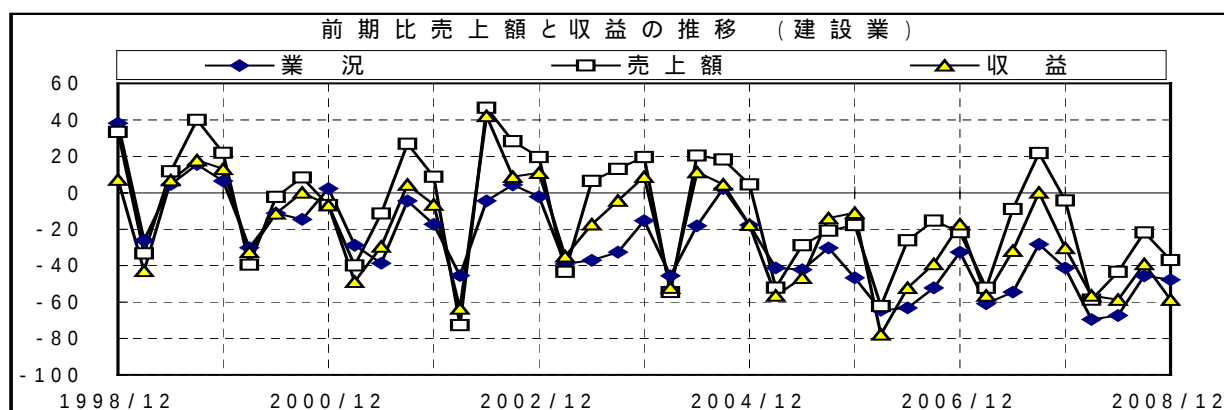
建設業 46 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-67.4	-45.6	-47.8	-71.7
売上額	-43.5	-21.8	-37.0	-69.6
収益	-58.7	-39.2	-58.7	-74.0

今期の業況判断 D I 値は 47.8 と、前期比 2.2 ポイント悪化、過去 10 年間同期の中で最も低い水準となった。地区別にみると、前期比浦河、えりも、広尾地区が改善し、様似地区が横ばい、静内、三石地区で悪化している。

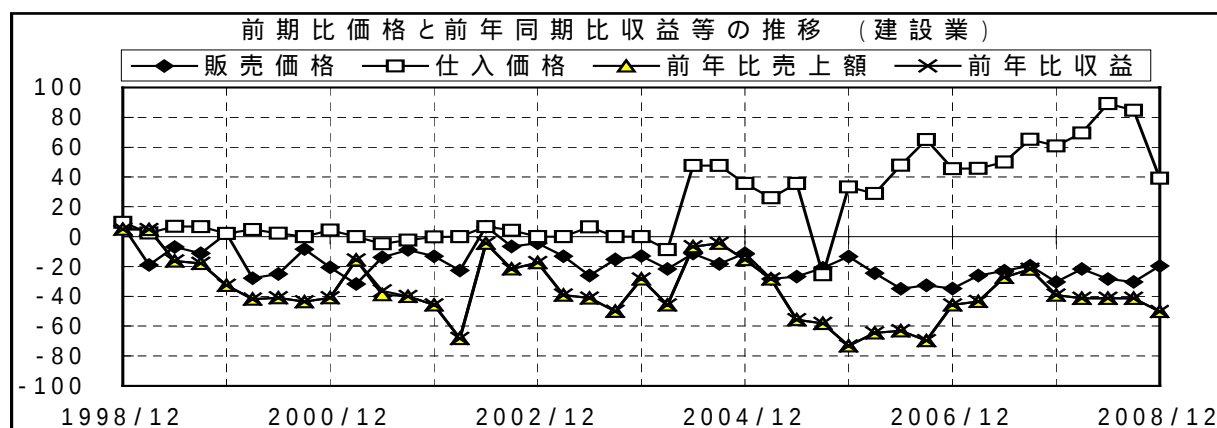
売上額、収益判断 D I 値は、売上額 37.0、収益 58.7 と、前期比マイナス幅が拡大しそれぞれ 15.2、19.5 ポイント低下した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
請負価格	-28.3	-30.4	-19.6	-26.1
仕入価格	89.1	84.8	39.1	13.0

請負価格判断 D I 値(19.6)は、前期比マイナス幅が 10.8 ポイント縮小、価格低下基調が弱まっている。一方、仕入価格判断 D I 値(39.1)では、前期比プラス幅が 45.7 ポイント縮小、価格上昇基調が弱まっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-37.0	-19.6	-12.9	-41.3
人手状況	41.3	23.9	6.6	21.8

残業時間判断 D I 値は 12.9 と、残業時間が減少したとする企業割合が減少し、前期比 6.7 ポイント上昇した。

人手過不足判断 D I 値は 6.6 と、前期比プラス幅が 17.3 ポイント縮小、人手過剰感が弱まっている。

□ 設備投資の動き

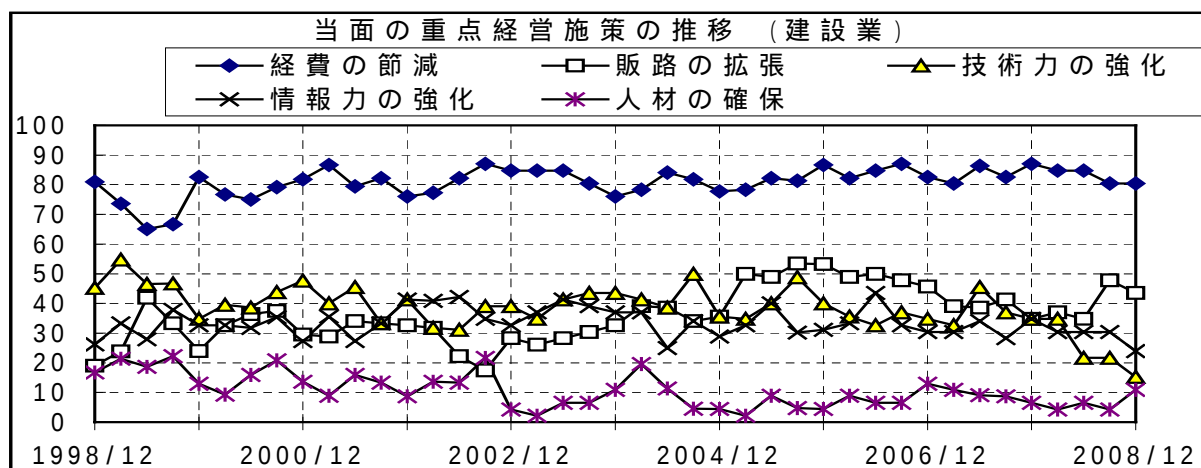
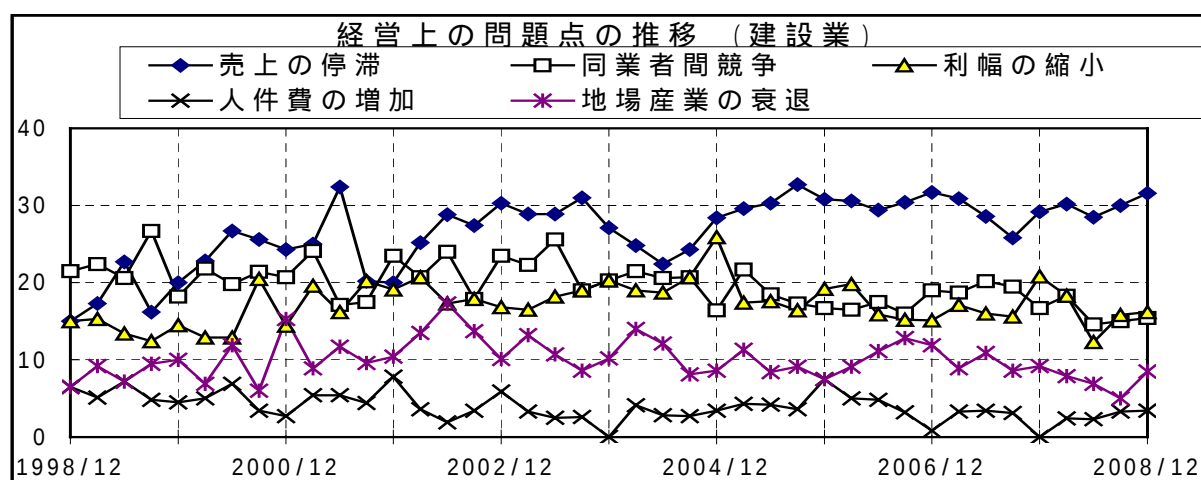
設備投資の充足感を示すD I 値は 0.1 と、前期(13.0)のプラスからマイナスに転じ13.1ポイント低下、極僅かに不足感が強まる一方、適正と回答した企業は82.7%で、前期(82.6%)から0.1ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は17.4%と、前期(13.0%)比4.4ポイント上昇し、件数で前期の6社に対し8社の実施となった。一方、来期予定では当期比3社減の5社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ31.6%、次いで「利幅の縮小」16.2%、「同業者間との競争」15.4%、「材料価格の上昇」14.5%の順に続き、前期との比較では「売上の停滞」と回答する企業がやや多くなっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業が「売上の停滞」、設備工事業が「売上の停滞」、「材料価格の上昇」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ80.4%、次いで「販路を広げる」43.5%、「情報力の強化」23.9%、「技術力を強化する」15.2%の順となっている。業種別にみると、総合工事業、設備工事業が「経費の節減」、職別工事業が「販路を広げる」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期(21年1~3月期)の予想業況判断D I 値は 71.7 と、今期(47.8)実績比23.9ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額 69.6(今期 37.0)、収益 74.0(今期 58.7)と、今期実績比それぞれ32.6、15.3ポイントの低下見通しとなっている。

予想請負、予想仕入価格判断D I 値は、請負価格が 26.1(今期 19.6)で今期実績比プラス幅が6.5ポイント拡大、価格低下基調が強まる一方、仕入価格は13.0(今期 39.1)で今期実績比プラス幅が26.1ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

卸 売 業 8 企 業 (回 答 率 100.0%) の 調 査 結 果 で す

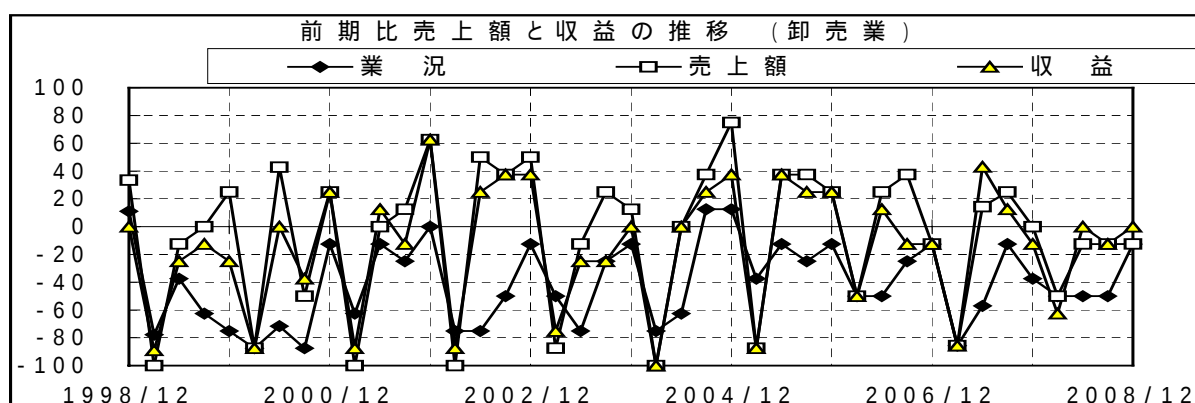
□ 景 況

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
業 況	-50.0	-50.0	-12.5	-62.5
売上額	-12.5	-12.5	-12.5	-87.5
収益	0.0	-12.5	0.0	-75.0

今期の業況判断DI値は 12.5 と、前期比 37.5 ポイント上昇し、5 期ぶりに改善となった。地区別にみると、前期比浦河、様似地区が改善し、静内、三石地区が横ばいとなっている。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 12.5 で前期比横ばいとなった一方、収益は 0.0 で前

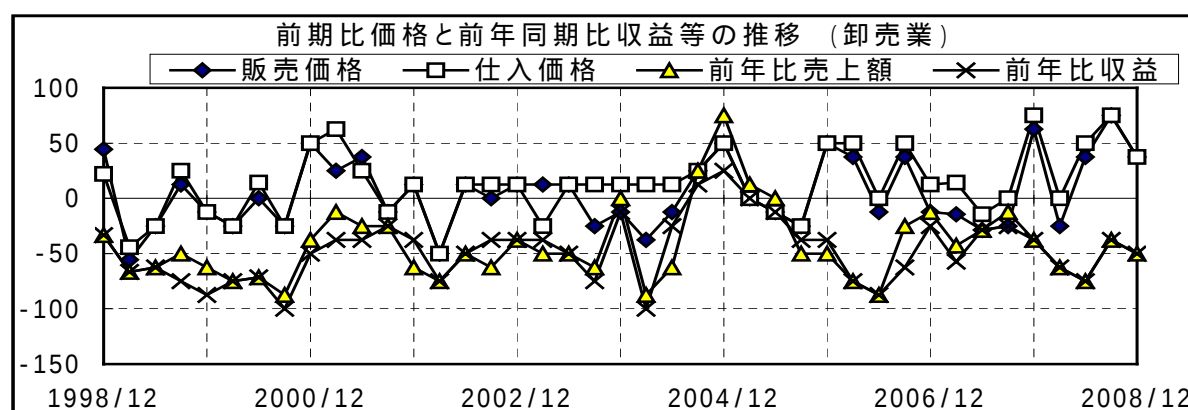
期比 12.5 ポイント上昇しマイナスからゼロ水準に転じた。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
販売価格	37.5	75.0	37.5	-50.0
仕入価格	50.0	75.0	37.5	-50.0

販売価格判断DI値(37.5)、仕入価格判断DI値(37.5)は、前期比プラス幅がそれぞれ 37.5 ポイント縮小、価格上昇基調が弱まっている。業種別にみると、前期比販売、仕入価格判断DI値は農産・水産物、食品でともに低下している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
残業時間	0.0	0.0	12.5	-37.5
人手状況	12.5	12.5	12.5	25.0

残業時間判断DI値は 12.5 と、残業時間が増加したとする企業割合が増加し、前期比ゼロ水準からプラスに転じ 12.5 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は 12.5 と、前期比人手過剰感が横ばいとなっている。

□ 設備投資の動き

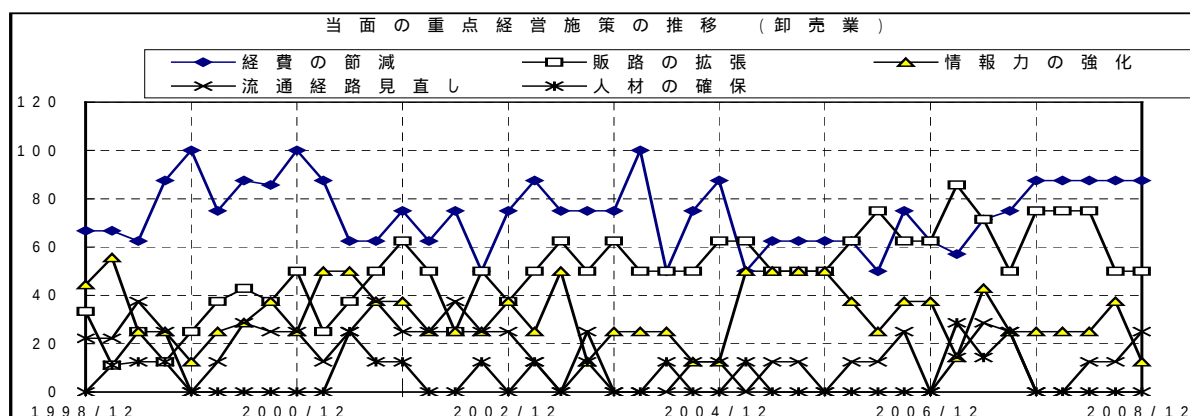
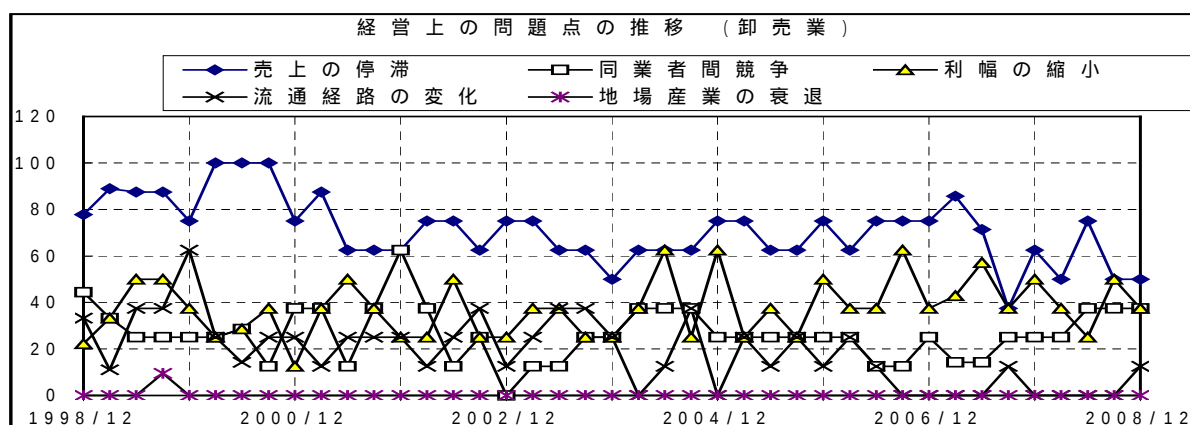
設備投資の充足感を示すD I 値は0.0 と、前期（12.5）比 12.5 ポイント低下しプラスからゼロ水準に転じ、適正と回答した企業も前期（87.5%）から 12.5 ポイント上昇、100.0%となった。

設備投資実施企業割合は 12.5%と、前期（25.0%）比 12.5 ポイント低下し、件数で前期の 2 社に対し 1 社の実施となった。一方、来期予定では当期比横ばいの 1 社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「取引先の減少」をトップに挙げ 62.5%、次いで「売上の停滞」50.0%、「同業者間との競争」、「利幅の縮小」37.5%の順に続き、前期との比較では「取引先の減少」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、農産・水産物が「取引先の減少」、食品が「売上の停滞」、「取引先の減少」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 87.5%、次いで「販路を広げる」50.0%、「パート化を図る」、「流通経路の見直し」25.0%の順となっている。業種別にみると、農産・水産物が「経費の節減」、食品が「販路を広げる」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期（21年1～3月期）の予想業況判断D I 値は 62.5 と、今期（12.5）実績比 50.0 ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額 87.5（今期 12.5）、収益 75.0（今期 0.0）と、今期実績比それぞれ 75.0 ポイントの大幅低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I 値は、販売価格 50.0（今期 37.5）、仕入価格 50.0（今期 37.5）と、それぞれプラスからマイナスに転じ今期実績比 87.5 ポイント低下、価格低下基調が強まる見通しとなっている。